

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立 諸富北小学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

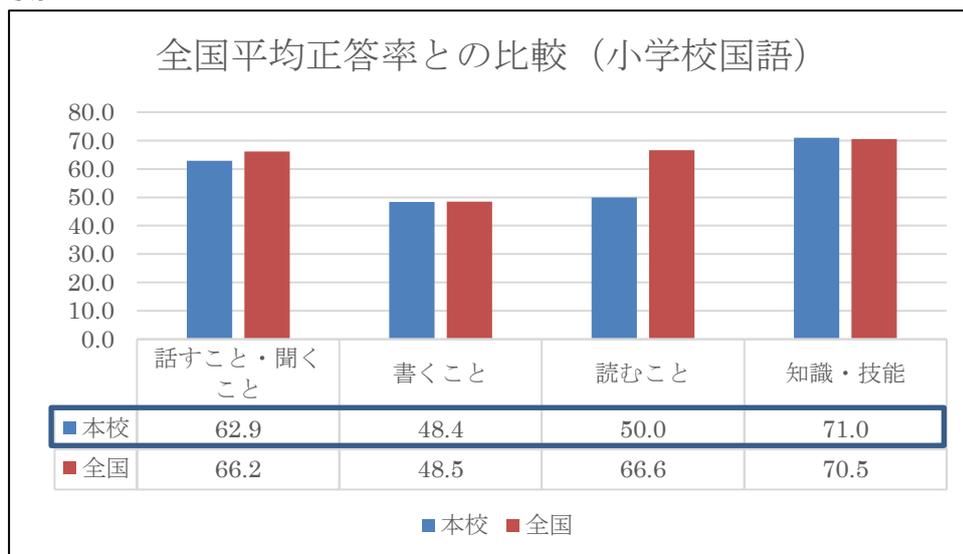
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうち「知識・技能」は0.5ポイント全国平均正答率を上回りました。「書くこと」については-0.1ポイントでしたが、ほぼ全国と同等の正答率となりました。一方で、残りの2領域では、「話すこと・聞くこと」で3.3ポイント、「読むこと」で16.6ポイントほど下回りました。特に「読むこと」領域では、今回は説明的文章ではなく物語文が出ており、それらの読解問題に苦手意識が見られました。無解答率については、多くの問題で全国平均よりも低く、児童があきらめずに問題に取り組もうとする姿勢が見られます。ただ、記述式の問題は全国同様に無回答率が高くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、全国平均を上回った「知識・技能」、全国平均と同等の「書くこと」については、成果として、普段の授業や宿題で書く機会や言語や語彙に触れる機会を増やし、書き慣れてきたことが効果として表れていると思います。また、言語や語彙については国語科だけでなく、学習全体の根幹になる力であり、普段から漢字や言葉、音読、視写、楽しみながら取り組める掲示物やプリントなどの成果が表れていると考えられます。

課題としては、内容領域の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の正答率を上げることです。前者は3.3ポイント、後者は16.6ポイントも全国平均を下回っていました。特に「読むこと」については物語の読解問題が出されており、「登場人物の心情や情景描写を前後の文脈や言葉から想像しながら読み取ること」、「何を問われているのか問題の意図を読み取りそれに答えること」を苦手に行っている傾向にあります。児童の読解力を高めることが、この2つの内容領域はもちろん、それ以外の領域の力を伸ばすことにもつながると考えます。普段の授業改善を通して、これらの課題に対しての力を伸ばしていくことが重要であると捉えています。

(3) 今後の学力向上のための取り組み

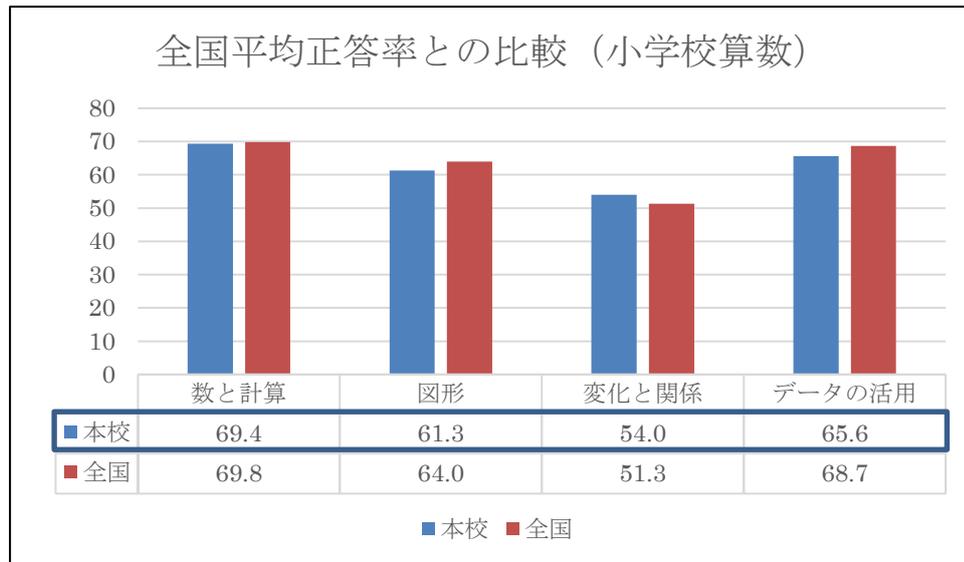
【学校では…】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫します。個人用PCも積極的に取り入れ、子どもが主体的・対話的で深い学びを実現するために、話し合いや考えの比較などを行います。
- 目的や内容に応じて自分の考えや内容のふり返しなどを書かせて、考えを書く機会を増やします。
- 漢字学習では単に覚えるだけでなく、それらを話す、書く、読む際に使える力を伸ばします。また、語彙を増やすため、辞書の活用、掲示物、読書活動に力を入れます。
- インタビューや新聞作成、パンフレットやリーフレット作りなど、日常生活につながる言語活動を授業で設定し、習得した力を活用する場面を増やして表現力の向上を図ります。

【ご家庭では…】

- 音読を大切に。しっかりはっきり声に出して読むことで、文の構成、内容、言葉の意味を理解することにつながります。文章を読んで、その内容や意図を正確に捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の基礎となります。音読の大切さを改めて意識し、毎日の課題として取り組みましょう。
- 読書を大切に。手に取りやすい「まんが○○」もいいですが、物語・科学・歴史・芸術・絵本…など、色々な種類の本を読み、多様な表現や言葉に触れることで、語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。特に、今回の結果から考えても、文字を読み進めるような読書の質と量の向上が必要です。保護者の方も一緒に読書時間を設けて、ご家庭で読書習慣を付けることもおすすめです。

2 算数(数学)



(1)結果

どの領域もほぼ全国平均と同等の結果でした。その中で「変化と関係」は 2.7 ポイント全国平均正答率を上回り、一方で「数と計算」は 0.4 ポイント、「図形」は 2.7 ポイント、「データの活用」は 3.1 ポイントと、3領域で全国平均を下回っていました。全体的にもうひとがんばりできる内容と結果だったと感じます。無解答率については、多くの問題で全国平均よりも低く、少なかったです。児童があきらめずに問題に取り組もうとする姿勢が見られます。ただ、記述式の問題は無回答率が目立ち、考えを記述して説明できる力が不十分だということが分かります。

(2)成果と課題

今回の調査では「変化と関係」の領域では全国平均正答率を上回っていました。一方で、「数と計算」、「図形」、「データの活用」では 0.4～3.1 ポイント全国平均正答率を下回っていました。観点別では、「知識・技能」を問う問題については、全国平均正答率を上回っており、問題を解くための解き方については定着が見られます。「思考・判断・表現」を問う問題では、全国平均正答率を若干下回っている程度でほぼ同等と言えます。一方で、手本として示されている説明の文章を参考に同等の問題について、数字や言葉を入れかえて解法を説明させる問題での誤答が多くありました。例示してあるものを適切に使って解答を導く学習法をもとに書き直すような学習活動に取り組ませていく必要があります。問題形式の「記述式」は全国平均と同等で、「短答式」は上回り、「選択式」が下回っていることから、基礎的な内容の定着も引き続き指導が必要だと分かりました。確かな知識・技能、計算力を身に付けるために、普段の授業や宿題等で四則計算や公式活用などの練習を行い、それらを正しく理解し、問題の中で使えるための力が必要で、自分の考えを説明したり書いたり見直したりする力を付けることも重要です。

今回、プログラミングに関する問題が初めて出題されました。示されたプログラムで長方形を正しく描くことができるものを選ぶ問題は、全国平均正答率を上回っていましたが、正三角形やひし形になると角度の求め方を表現することに課題が見られました。プログラミングに関しては、教科の中で定着を図るためにも、一人一台端末を効果的に活用して今後も指導の充実を図ります。

(3) 学力向上のための取り組み

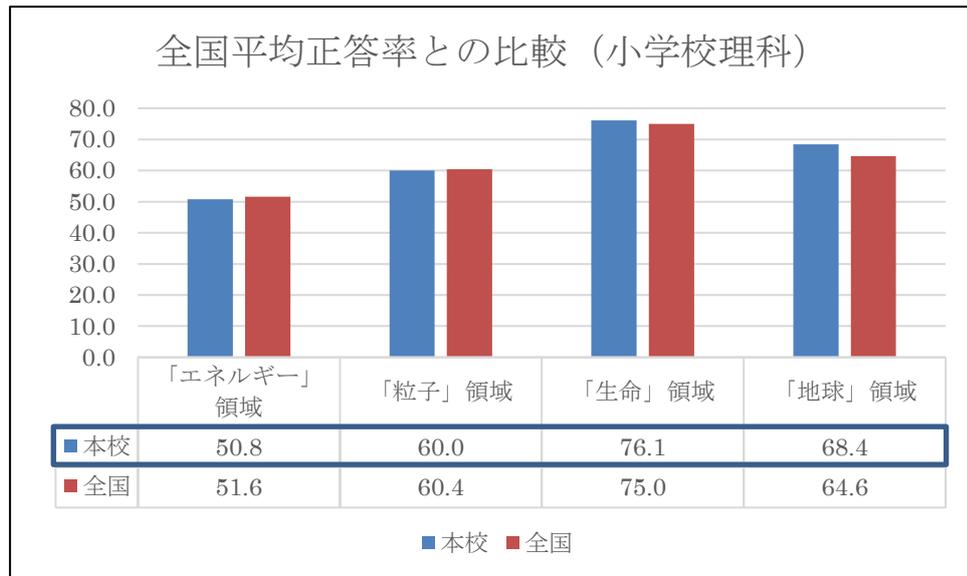
【学校では…】

- 児童が主体的に学びに向かうような**授業づくり**を行います。その中で問題文を正しく読み取って式を作ったり、絵や図などで表したりして、**自分の考え、解き方を相手に伝える**ことができる力を身に付けさせていきます。その機会を多く設け、しっかりと自分の考えをノートやプリントに書いて**記述力の向上**に努めます。
- 3～6年生で学習内容に応じて**TT・少人数指導**を効果的に行い、分かりやすい授業、細やかな指導を行います。また、個々のつまづきや苦手を早期に見つけ、**補充指導**に努めます。
- 学習内容の中で、必要に応じて個人用PCを活用し、**プログラミング的思考**を養っていきます。

【ご家庭では…】

- 児童が取り組んでいるプリントや計算ドリル、ワーク等の宿題の様子やテストを通してがんばりに対して**励ましや称賛の言葉**、必要に応じて**アドバイス**等をかけてください。**類似問題を繰り返し解く**こともおすすめです。
- 算数の学習内容は、教科の中でも特に学年間の学習内容のつながりが意識しやすい教科です。その学年で苦手としていることは、前学年までの内容と大きく関わっています。学校での授業、学習、宿題はもちろん確実に取り組み、学年に応じて、**学校での学習に加えて家庭学習(自主学習)**に取り組みましょう。**前学年までの復習でも翌日の内容の予習**でもかまいません。日々、少しずつでもいいので百ます計算や計算練習などに取り組んでみましょう。

3 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「生命」領域では 1.1 ポイント、「地球」領域では 3.8 ポイントほど全国平均正答率を上回りました。全国平均正答率を下回った2領域の「エネルギー」領域で 0.8 ポイント、「粒子」領域で 0.4 ポイント程度でしたので、学習内容はおよそ定着していると見られます。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっているものの、3(4)「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとにして書く」という記述式の問題が約 16%無回答となっていて、この問題だけ全国平均を大きく下回りました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「思考・判断・表現」を問う問題では、全国平均正答率を 3.5 ポイント上回ることができました。一方で「知識・技能」を問う問題では、メスシリンダーといった実験器具の名前を問う問題や、日光が直進するといった光の性質についての基礎的な問題での課題が見られましたので、改めて実験器具の名称や使い方、事象の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく必要があります。

光の性質についての問題では、実験結果から得た情報を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題に課題が見られ無回答率も高くなりました。実験結果をもとにした考察を書いたり、問題の正対する結論の導き方について学ぶ学習に丁寧に取り組んだりすることで、児童の問題解決力を高めます。また、日々の授業で説明する活動、書く活動についても継続して取り組ませ、記述した内容を確認させていきます。

必要に応じて ICT（タブレット PC や電子黒板）を活用し、視覚的にも内容理解を進めます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもって実験・観察が行えるために、授業の流れを視覚的に提示します。また、実験器具や理科的な用語などを確実におさえていくことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ」と、問題解決の過程を大切にして学習指導を行うことで、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。まとめる際には、分かった事実や結果、覚えて確認したい内容、学習用語を必ず入れて書くという機会を増やし、知識・技能の定着と記述力の向上を目指します。
- 様々な見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う場を設けます。実験や観察したものを共有し繰り返し確認できるように、必要に応じて個人用 PC の活用を行います。

【ご家庭では】

- 児童が取り組んでいるプリントやテスト、学習ノート等をご覧になり、励ましの言葉をかけてください。
- 理科は生活場面に即した内容のものが多くあります。「習ったことが生活の中でこうなるのか。分かってよかった。使えて便利だな。おもしろいな。」と思う経験を数多くさせていくことが有効です。1つの事象について一緒に話したり、学習している内容の教科書を一緒に見たりすることで生活場面と学習内容を結びつけて考えることができ、さらに内容理解が進みます。
- 佐賀県立武雄宇宙科学館や博物館、科学館などのイベントに、ご都合があればご家族で行ってみることで、理科に関する興味関心が向上することがあり、学習への意欲も高まることにつながります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	87.1 %	84.9 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	16.1 %	40.7 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	48.4 %	56.8 %
自分にはよいところがあると思いますか。	25.8 %	39.4 %
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	22.6 %	27.6 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	74.2 %	75.1 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	64.5 %	83.9 %

起床時間・就寝時間について全国平均を大きく下回っている回答結果になりました。児童がしっかりと安定した睡眠時間の確保ができていないことになり、規則正しい生活リズムの定着が課題と言えます。学校でも「早寝・早起き・朝ごはん」という生活リズムの大切さはこれまでも伝えてきましたが、これらを身に付けることは、学習面、生活面、体調面にとって大変重要だということを改めて児童や保護者に啓発し、家庭と学校が協力して習慣化していかななくてはならないことだと考えます。

挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。S S W (ソーシャルスキルワーク) や構成的エンカウンターなどに取り組み、児童のやる気や自己肯定感を高めていきます。いじめについては、「レインボー作戦」や道徳の授業などを通して人権意識を高め、絶対に許されないことであることを改めて伝えていき、その防止に努めます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	25.8 %	27.5 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	6.5 %	11.3 %
「2時間以上、3時間より少ない」	29.0 %	13.8 %
「1時間以上、2時間より少ない」	29.0 %	34.3 %
「30分以上、1時間より少ない」	22.6 %	25.8 %
「30分より少ない」	6.5 %	10.5 %
「全くしない」	6.5 %	4.2 %

家庭学習については全国平均とほぼ同等か、それを上回っており、学習時間についてはおおむね習慣化ができています。ただ、中学生を目の前にしてまだ「1時間未満」の児童が4割近くおり、家庭での学習時間に個人差が見られました。「家庭学習の手引き」や学力向上だより『ぐんぐん↑↑』をもとに家庭学習の意味や大切さを児童、保護者に啓発し、今後も継続して家庭学習が充実するような取り組み(宿題や自主学習、P T Aとの連携)を続けていきます。新型コロナウイルス感染症による学習機会のばらつきや児童の心の問題も大切な課題であり、I C Tや教育相談の機会を設け、今後も対策やケアを行います。また、感染対策も指導を続けてきたいと思います。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では…】

- 学校では、学年に応じた質と量の宿題を出します。内容も主体的にできるものや興味をひくようなものを取り入れます。自主学習(自学)については下学年から適宜取り組ませています。
- 毎朝のあいさつ運動、週に3回のたてわり掃除を行い、児童同士のつながりを持たせながら規範意識を高め、学校全体として互いがんばりや良さを認め合えるような雰囲気づくりを行います。
- 月1回「ノーテレビ・ゲーム・スマホデー」、年3回「家庭学習強化週間」を行い、規則正しい生活習慣と学習習慣を意識させます。学力向上便り「ぐんぐん↑↑」を出し、学力向上や家庭学習の啓発を行います。

【ご家庭では…】

- 生活面については、家庭での声かけや意識づけがとて有効です。特に睡眠時間については、日常的に気がけて声をかけてあげてください。決まった時間に決まったことができるメリハリのある規則正しい生活と家庭学習の定着は、今の時期の児童らにとって極めて大切です。学習でも生活でもスポーツでも、子ども達が自分から取り組めた時、挑戦した時、できた時、向上した時は、ぜひ子どもたちの顔を見て、褒めて認めてください。そうすることで子どもの意識は高まり、不安な気持ちはやわらいでいきます。子ども達の様子で気になった点がありましたら、学校に遠慮なくご相談ください。